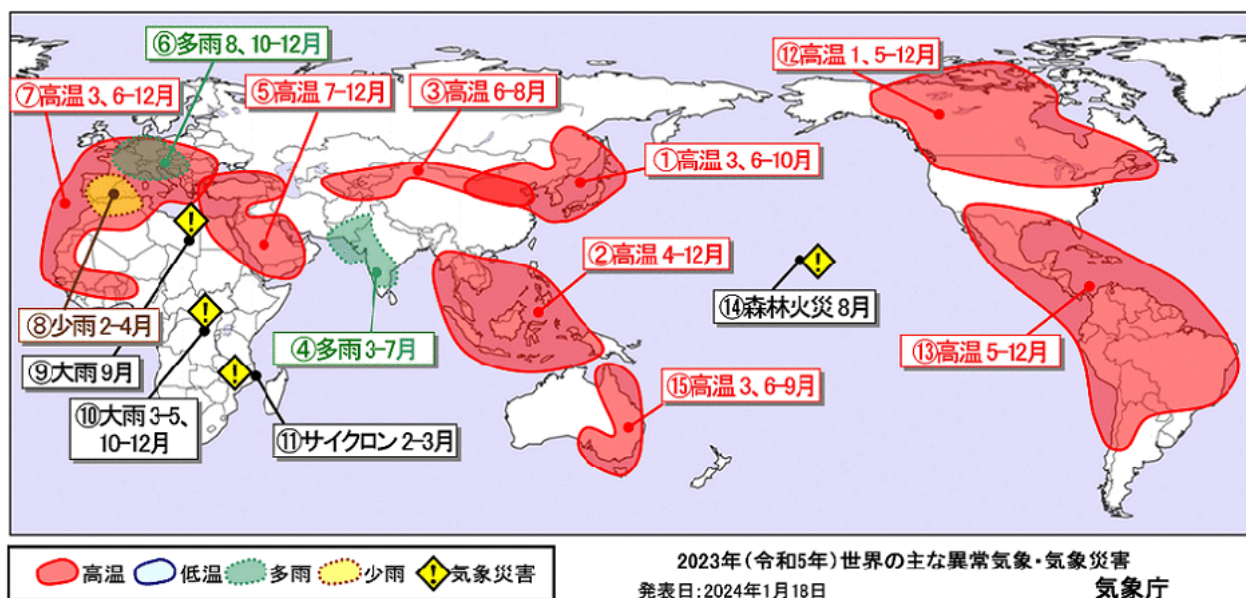


「地球沸騰化」にあなたは どうする!?

環境カウンセラーとして 私の最も重要な仕事は？

会員 久志 唯

昨年夏、国連のアントニオ・グテーレス事務総長が「地球沸騰化の時代が到来した」と発言し、話題となりました。パリ協定では、世界の平均気温上昇を産業革命前に比べて 2℃より十分低く保つ(2℃目標)とともに、1.5℃に抑える努力を追求すること(1.5℃目標)が示されましたが、その後 2018 年に IPCC から出た「1.5℃特別報告書」で、「地球温暖化を 2℃、またはそれ以上ではなく 1.5℃に抑制することには、明らかな便益がある」と報告されたことから、世界は 1.5℃目標の達成に向けて進んでいます。そんな中、EU の気象情報機関「コペルニクス気候変動サービス」は、2023 年の世界の平均気温が産業革命前と比べて 1.48℃上昇し、観測史上最高だったと発表しました※1。これはパリ協定の 1.5℃目標に迫る記録です。グテーレス事務総長の「地球沸騰化」という言葉には日本国内で賛否ありましたが、結果として 2023 年は観測史上最高気温となり、世界各地の広い範囲で異常高温が発生した年となりました。



出典：気象庁 HP 「世界の年ごとの異常気象 対象期間：2023 年」

https://www.data.jma.go.jp/cpd/monitor/annual/annual_2023.html

こうした世界の気温上昇は、私たちの生活にどのような影響を与えるのでしょうか。「気温が高くなる」と聞くと、大半の人は「夏が暑くなって嫌だなあ」「熱中症対策をしないと」と考えるようです。確かにそうした影響も重要ですが、気温上昇は他にも私たちの生活に深刻な影響を及ぼしています。

日本国内では気候変動による影響として、豪雨による水災害、異常高温による熱中症などが発生しているほか、米の品質低下・収量の減少、果樹・野菜等の品質低下、家畜への影響、海面養殖業への影響などがすでに現れ

ています※1。また、気候変動の影響は経済活動にまで波及しており、自然災害の多発による保険金支払額の著しい増加、企業の水災害リスクの増加、積雪深の減少によるスキー等の観光業への影響が指摘されています※2。加えて海外で生じた気候変動影響、例えば極端な干ばつによる小麦の不作・品質低下などが、国内の小麦製品の価格向上などにつながるなど、輸入を通じて海外の気候変動の影響を間接的に受ける事例も出ています※3。

このような気候変動による影響について一般の方にご紹介すると、驚かれることが多いです。一般の方にとっては、例えば朝と夕方で10℃以上の気温差がある日もあるのに、気温が1度上昇することがそんなに問題なのかと感ぜられるようです。ですが現実として、1.5℃の気温上昇でこのような影響がすでに出てきています。地球温暖化による気候変動は、「夏が暑くなって嫌だなあ」どころの話ではなく、「これまでのような生活ができなくなりつつある」「すでにこれまでのことを続けるのを諦めて、違うことに転換しなくてはならない場面が出てきている」というフェーズだと感じています。

IPCCの最新報告書である第6次報告書では、「この10年間に行う選択や実施する対策は、現在から数千年先まで影響を持つ」という文言がありました※4。「大幅で急速かつ持続的な」対策の実施が必要です。こうした状況を受けて、世界中で脱炭素化が急速に進んでいます。世界中で再エネが導入され、化石燃料に代わる燃料（資源）や方法が研究・開発され、肉食の削減のために代替肉製品が増え、サブスクやレンタルサービスが拡大し、電気自動車が売り上げを伸ばし、建物や家電の省エネ基準が定められ運用されています。私の環境カウンセラーとしての最も重要な仕事は、このような急激とも思える社会変化の背景を知ってもらうことだと思っています。私たちがこのままでできる限り負の影響を減らしつつ、存続していくために必要な変化です。私も微力ながらその変化に寄与できるような活動を実施していきたいと思います。

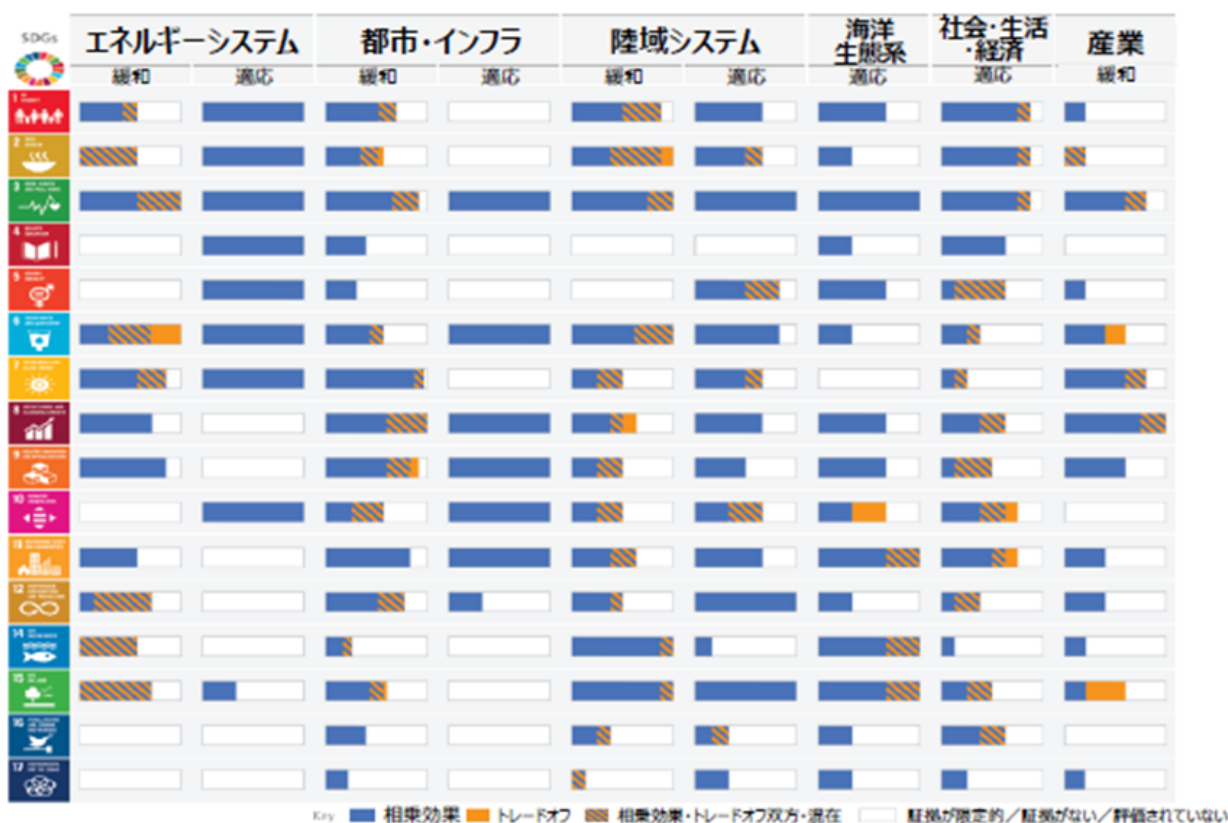
参考資料：※1 <https://climate.copernicus.eu/global-climate-highlights-2023>

※2 A-PLAT 気候変動適応情報プラットフォーム HP

※3 農林水産省「輸入小麦の政府売渡価格について」令和4年3月

※4 IPCC 第6次報告書統合報告書政策決定者向け要約 C.1

短期的な適応・緩和策はSDGsとのトレードオフよりも相乗効果が多い



短期的な気候変動対策は、SDGs のゴールの達成とも相乗効果が高いと示されています。

(出所)IPCC AR6 SYR Longer report Figure 4.5

出典:「IPCC 第6次評価報告書 統合報告書 政策決定者向け要約 解説資料」2023.3.24

編者 国立環境研究所 IPCC 第6次評価報告書 統合報告書 解説委員会

新会員紹介

活動実績の豊かな3名の方が入会されました！



川遊びはおまかせ

■ 中島重人(なかしま しげひと)氏

自己紹介

中学2年生の頃、友人に誘われてゴミ拾い活動に参加した事がきっかけで、環境活動に携わるようになりました。双子を含む3児のパパです。今後、小学校などで環境教育の講師などが出来るようになれば良いな～と思い、環境カウンセラーを志しました！これからよろしくお願いします。

活動報告 代表を務めております Good News は、毎月

第2土曜日に筑後川のゴミ拾い活動や自然体験活動を行っています。

最近では企業などの参加も多く、年間で1000人程度の方が参加してくれています。令和5年度は、筑後地方の教科書副読本「よいこの社会科」にも掲載させて頂きました。



Good News の筑後川ゴミ拾い



子どもたちと川遊び

■ 森 博史 氏

自己紹介

平成23年の3月に「地域カーボンカウンセラー」の教育を修了し、その仲間が中心になって、低炭素社会推進福岡協議会(LCFC)を結成し、私はその代表として活動を続けています。

省エネ、創エネ～リサイクル、エコドライブなどの幅の広いエコ活動を行っており、うちエコ診断士、福岡県温暖化防止推進員としての活動も行っております。一昨年、「脱炭素社会の実現、地球温暖化対策、再生可能エネルギー促進」分野の環境カウンセラーとして登録されました。現在、73歳になりましたが、まだ、土木設計系の会社に嘱託として勤務しておりますので、比較的、忙しくしています。



活動紹介

① 家庭でできる「ゼロカーボンアクション 30」に基づく啓発活動

広いエコ活動の面から地球温暖化防止に向けた活動を行っており、その経験や関連団体とのネットワークを生かして、環境省が進めている「ゼロカーボンアクション 30」をベースにそれを具体的な行動案に落とし、一般の方が取り組めるような策を探し出して、どのような家庭にあっても、何らかの対策をできる

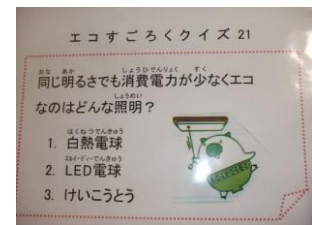
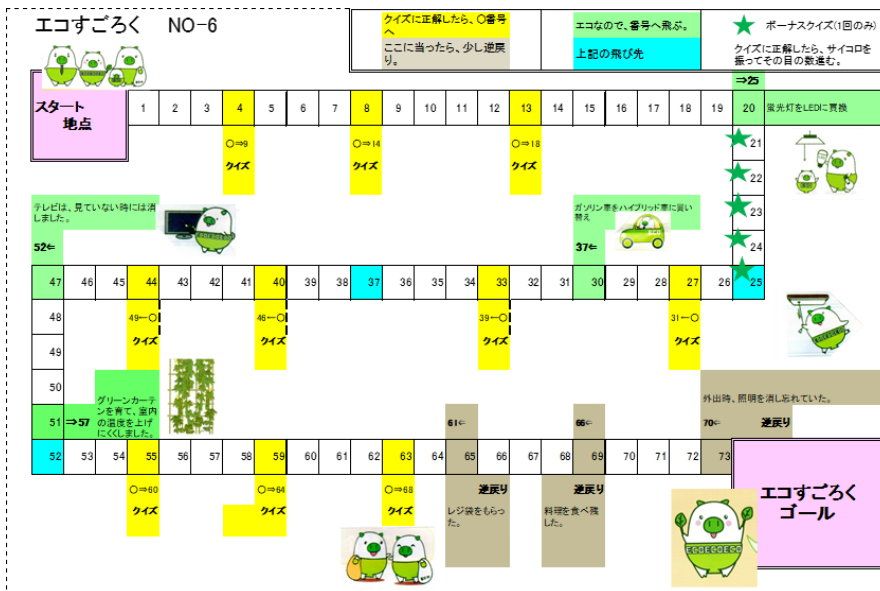
ことを知ってもらえるような啓発活動を推進しています。出来るだけ、自分や仲間が実践している対策については写真などを具体的に示しています。



対策区分	番号	・現状で実施しているが、又は、出来ればさらに進める。 ・現状でやっていないが、今後進めたい対策。	現状	今後
4.節水 水もエネルギーを使用して、供給	4-1	<input type="checkbox"/> こまめに、水道を止めて使用する。		
	4-2	<input type="checkbox"/> 水を再利用するように工夫する。(風呂の水⇒草木など)		
	4-3	<input type="checkbox"/> シャワーは、節水シャワーヘッドに取り換えて使用する。		
	4-4	<input type="checkbox"/> 冬以外で、風呂に湯を張る回数を減らし、シャワーにする。		
5.省エネ家電の導入	5-1	<input type="checkbox"/> 白熱球や蛍光灯は、出来るだけ、LED照明に変える。		
	5-2	<input type="checkbox"/> 古くなり、故障気味の家電は、省エネ家電への買い替えに変える。		

② 「エコすごろく」を利用した啓発活動

「エコすごろく」は、LCFC のみんなで制作したオリジナルな双六です。サイコロをふつてコマを進めますが、随所にクイズのマスがあり、別途用意したクイズパネルの 3 者択一のエコクイズに正解すれば、所定のコマ数進むことができます。そのクイズの正解の解説は、進行役の手腕の見せ所です。そのほか、エコな行動、エコにならない行動のマスがあり、進めたり、逆戻りもあります。小学生から高齢者まで、双六を楽しみながら、啓発活動のツールとして、活用していきたいと考えています。



クイズ問題例

エコすごろく盤

③ 環境関連施設の視察

LCFCでは、エコ関係の環境施設の視察を進めてきました。北九州地域では、環境ミュージアム、響灘ビオトープ、風力発電、福岡地域では太陽光発電施設、下水処理場の水素燃料施設、イケアの環境配慮設備などの視察を企画してきました。令和5年には、「おおき循環センターくるるん」バイオマスプラントや29分類を行っている環境プラザの視察をしてきました。参加者の感じた所感について、取りまとめて、今後に生かすようにしました。

■ 須賀 信明 氏

自己紹介

環境カウンセラーには、2021年度に登録されています。登録分野は、地球温暖化、資源・エネルギーです。所属の九州山口CO2カウンセラー協会は、地球温暖化のため環境保全活動を中心として、地域の人とのふれあいや交流を深める活動に積極的に取り組むという事業方針を持つ任意団体です。



活動紹介

これまで、NPOなどで環境エネルギーの講師や学習イベントなどのボランティア活動、また省エネや再エネ関連業務などを行なってきました。今年度は、電気やエネルギーのことを考える小学生を対象とする科学教室の講師として参画しました。内容は、環境エネルギーについての説明、再エネ発電の体験学習、エコクイズ、ウインドカー工作などです。よろしくお願いします。

表彰



受賞おめでとうございます！

★環境大臣表彰「令和5年度環境省地域環境保全功労者」★

ふくおか環境カウンセラー協会 理事 大平 裕 氏

【主な功績】

自然科学系の環境教育に取り組み、福岡県初の希少野生生物リストの調査・執筆及び編集を分担した。児童や地域住民が自然と触れ合う場としてビオトープの整備や管理を実施した。近年は、脱炭素社会づくりを軸に、循環経済や自然再興に関連した出前講座を、公民館を主に児童から事業者までの幅広い要請に応じて提供している。

★県知事表彰「令和5年度福岡県環境保全功労者」★

ふくおか環境カウンセラー協会 垣迫 裕俊 氏

【主な功績】

北九州市職員として市の環境政策をけん引する傍ら、平成16年に環境カウンセラーに登録し、平成19年から北九州市立大学大学院特任教授、令和元年から九州産業大学教授として、自らの経験を国内外の行政関係者や市民・企業関係者等に幅広く共有するための論文執筆活動や全国各地での講演等、行政職員の枠を大きく超えて活動した。環境行政の職務を離れて以降も、環境政策の考え方や環境保全の重要性についての啓発活動などを継続している。

当協会は、食品ロス削減推進サポーターとして団体登録しています。

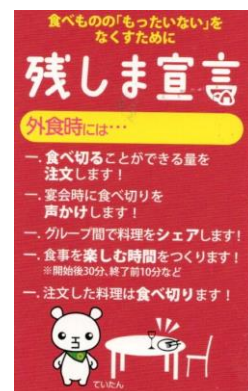
皆さんも、研修を受け、講師になって活動しませんか？

当協会は、平成4年度から消費者庁の食品ロス削減推進サポーターとして団体登録し、現在5名の会員がサポーターとして認定され、講師等として活動しています。

サポーター制度は、消費者庁または地方公共団体等が開催する食品ロス削減推進サポーター講座を終了し、食品ロス削減の基礎知識、消費者、食品事業者、一般企業、学校等の様々な主体が取り組める事例、地域の課題解決に必要なスキルやノウハウを習得した人で、様々な場面で自ら活動する意向のある人材を地方公共団体及び消費者庁に登録し、育成した人材の活用を図っていくための制度です。

まだ研修を受けてない会員の方は、令和6年度も食品ロス削減推進サポーター育成オンライン講座が開催されますから、受講してぜひ食品ロス削減推進サポーターとしてご活躍ください。

我が国では、食品ロス削減の目標を設定し、2000年度推計値（980万トン）から、2030年度までに半減（489万トン）させてことを目指しています。



事務局より

◆お悔やみ申し上げます【学会会員 植木康太氏】

当協会設立時から会の運営にご尽力された学会会員植木康太氏が昨年12月にご逝去されました。温暖化防止テキストの作成受託事業をはじめ様々な事業に精力的に活動されました。ご冥福をお祈りいたします。

◆「NPO 法人こすみんず」解散に伴う残余財産の帰属について

NPO 法人こすみんず（飯塚市、白井義人会長）の解散に伴い、2023年7月18日に残余財産97,064円を本協会に帰属されました。NPO 法人こすみんずは、2015年10月に設立され、福岡県飯塚市の環境問題の解決のために活動を進めていました。帰属された財産は、NPO 法人こすみんずの活動趣旨を理解し、私たちの活動に有意義に利用して参ります。

◆会費納入のお願い

「ふくおか環境カウンセラー協会」は会員の皆様の会費で運営されています。また、全国連合会費も会員数に応じて支出しています。会費未納の方は至急納入してください。

年会費 3,000円 振込先：郵便貯金総合通帳「ぱるる」

記号 17410 番号：13271061 名前：ふくおか環境カウンセラー協会

◆準会員 並びに 賛助会員 募集

準会員：会費（1口2千円） 賛助会員：会費（1口1万円） 学会会員：会費なし

発行責任者：依田 浩敏 （編集責任者：森本美鈴）

連絡先：〒813-0017 福岡県福岡市東区香椎照葉2-3-36

TEL/FAX:092-672-9911

<https://fukuoka-eca.org/>メールアドレス：feca.office@gmail.com